

盛岡の小さな文化発信地



「喫茶MAMA」は、昭和7年に開店した喫茶店で、盛岡では最も古い喫茶店とされています。

かつては、彫刻家の舟越保武、画家の松本俊介、深沢紅子など盛岡にゆかりのある芸術家たちのサロンとなっていました。また、ギャラリ―喫茶として、盛岡の小さな文化発信地として多くの方に愛されてきました。

平成17年にママが亡くなり、一時店の存続が危ぶまれましたが、その後、多くの声にも押しされご主人が、姪御さんを迎え入れ（三代目ママ）、喫茶ママは再開されました。

それに伴い、外壁も麻布地の黄色い壁から白い壁に新装され、現在も多くのお客様に愛されて続けています。

